

GUIDE TO STUDY ABROAD PROGRAM 2021

FACULTY OF INTERCULTURAL COMMUNICATION



Contents

SAに参加するみなさんへ	1
1 スタディ・アブロード (SA)・プログラムの内容	2
1 SAスケジュール (予定)	3
2 SA先大学の決定方法	4
3 英語圏SA先大学の決定方法	5
4 TOEIC®-IPの受験について	5
5 国際文化学部SA参加条件	5
6 出国・帰国について	5
7 海外旅行保険について	5
8 ビザ取得について	5
9 SAに係る費用・奨学金とSA先の情報 (2019年度実績) ...	6
2 SA期間中に行うこと	8
3 帰国後に行うこと	9
4 オフィスアワー	9
5 SA以外の留学制度	10
6 グローバル教育センター	10
7 SA先大学紹介・SA体験談	11
シェフィールド大学 (イギリス)	11
リーズ大学 (イギリス)	12
カリフォルニア大学デイヴィス校 (アメリカ)	13
ミシガン州立大学 (アメリカ)	14
ボストン大学 (アメリカ)	15
ブロック大学 (カナダ)	16
トロント大学 (カナダ)	17
ヨーク大学 (カナダ)	18
モナシュ大学 (オーストラリア)	19
ロイファナ・リューネブルク大学 (ドイツ)	20
西部カトリック大学 (フランス)	21
ベテルブルク国立交通工科大学 (ロシア)	22
上海外国語大学 (中国)	23
バルセロナ大学 (スペイン)	24
韓国外国語大学 (韓国)	25
Q&A	26
8 注意事項	27





渡辺 昭太 准教授
国際文化学部SA主任

SA（スタディ・アブロード）プログラムに参加する皆さんへ

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

皆さんの多くは、SA（スタディ・アブロード）プログラムへの参加を楽しみに入学されたことと思います。国際文化学部では、1999年の学部創設以来、2年次の秋学期に全員が留学するSAプログラムを必修とし、これまで多くの実績を積み上げてきました。現在、世界10カ国、15の協定校があり、全員がそのいずれかの大学に留学します。留学中は外国語運用能力を磨き、異文化理解を深めるために、各大学が提供する教育プログラムを履修しつつ現地での生活を送ります。そこでの生活は、学部が目標として掲げている「国際社会人」になるための貴重な経験となるはずです。

さて、このSAプログラムには2つの性格があります。

1つ目は、学生生活前半のゴールとしてのSAプログラムです。皆さんは入学後、約1年半かけて外国語科目や情報科目をはじめとする様々な科目を履修し、現地で生活するために必要な知識や能力を身に付けていきます。そして、それらを最大限に活用しつつ、異文化の中で約半年間過ごします。つまり、SAプログラムは学生生活前半で身につけたことを実践する場となるのです。はじめは戸惑いや不安が大きいかもしれませんが、やがて現地での生活を楽しむことができるようになり、自分の成長をはっきりと感じ取ることができるでしょう。

2つ目は、学生生活後半のスタートとしてのSAプログラムです。現地で生活している間に、予想外の体験をしたり、意外な人物に出会ったりして、それまでは気づかなかった問題意識が芽生えると思います。その問題意識を大切にして、帰国後、より深く掘り下げていってください。SA後は、ゼミ（演習）や専門科目の履修を通じて考察を深めたり、国際文化情報学会（学部併設された研究発表の場）で自分の考えを発表したり、卒業研究を行ったりと、SAプログラムを通じて得た問題意識を深く探求する場がたくさん用意されています。これらをうまく活用して、学生生活の集大成としてください。SAプログラムは国際文化学部の目玉とも言えるプログラムです。しかしながら、それは4年間の中のわずか半期（1セメスター）に過ぎません。他のセメスターとの有機的な連携を図ってこそ、国際文化学部での学びが真に充実したものとなるのです。

ところで、SAプログラムは入学すれば無条件で参加できるものではありません。定められた単位の取得、書類提出などの手続き、ガイダンスへの出席、継続的な情報収集など、やるべきことはたくさんあります。また、現地で安全に過ごすためには、生活態度に注意し、守るべきルールはきちんと守るといったことも大切です。もちろん、教職員が一丸となって皆さんをサポートしますので、過度に心配する必要はありませんが、各人が自覚を持って臨む必要があることも忘れないでください。

ご存じの通り、現在、世界では新型コロナウイルス感染症が蔓延しており、日々の生活にも大きな影響が出ています。SAプログラムも例外ではありません。教職員一同、検討を重ね、皆さんの安全を最優先に考えた結果、大変残念ですが2020年度および2021年度のSAプログラムは中止となりました。今後も不透明な状況が続きますが、国際文化学部、そして法政大学のリソースを最大限に活用しつつ、皆さんの学生生活が実り多いものになるようサポートしていきます。

SAプログラムが皆さんの成長の大きなきっかけになることを願っています。



スタディ・アブロード (SA) ・プログラムの内容

1 SAプログラムの目的

国際文化学部では、全員がSAプログラムに参加することを義務付けています（SSIコース生のうち指定の履修パターン選択者および外国人留学生入試・日本語学校指定校推薦入試・海外高等学校指定校推薦入試・済州特別自治道教育庁推薦入試で入学した学生は除く）。それは、外国語運用能力を磨き、異文化を理解するためには海外留学を経験することが重要であると考えからです。SAプログラムではおもにSA先国における各言語を中心に学ぶことになりますが、現地では勉強だけでなく、海外でのキャンパスライフや日常生活を通じて、異文化間の共通性や差異性を探る能力を養うことも大きな目的のひとつです。いわゆる文化摩擦やカルチャーショックを肌で感じ、それらに対する理解を深めてほしいのです。また率直な意見交換ができる友人を得ることも学生時代の大きな財産であると考えます。SA先で知り合う外国の友人や先生は将来皆さんの宝物になると思います。外国での生活体験、学習体験は皆さんが「国際社会人」に近づくための貴重な体験になると信じています。

2 プログラム内容

原則として、授業は留学先の言語とその国の文化に対する理解を深めることが出来るように構成されています。カリキュラムは各SA先によって異なります。詳細は各種ガイダンスにてお知らせします。

3 派遣原則

- SAは必修です。国際文化学部の2年生全員が参加しなくてはなりません（SSIコース生のうち指定の履修パターン選択者および外国人留学生入試・日本語学校指定校推薦入試・海外高等学校指定校推薦入試で入学した学生は除く）。
- 所定の単位を修得していない場合、提出期限までにSA参加に必要な書類が提出されていない場合、所定の期日までにSA費用や授業料が支払われていない場合には、SAに参加できません。
- 事前学習が著しく不十分と判断される者、また、著しく性行不良で改善の見込みがないと認められる者、その他理由のある者にはSA参加を延期させることがあります。

5ページ5.参照

4 SA先言語科目の履修について

SA参加学生はSA先言語の授業ILAC4群外国語科目1～8を全て履修します。それらに加えて、言語コミュニケーション科目や言語アプリケーション科目を配置しています。

言語コミュニケーション科目は、会話・作文・読解などの学習を通じてコミュニケーション能力を養う、SAの準備的な意味を持つ科目です（登録必修）。SA前の1年次秋学期から履修していきます。

SA先での学習と言語コミュニケーション科目との間には密接な関係がありますので、SA先での主たる使用言語と同一言語のコミュニケーション科目を履修していただきます。

言語アプリケーションはSAで達成した言語能力の維持と展開のために設置されています（選択科目）。SA後の3年次春学期から履修可能です。

5 帰国報告、単位認定

SA留学先での学習は、通常16単位をSA科目として法政大学の卒業所要単位にRS評価として認定します。単位の認定は留学先での授業終了後、留学先から送付される成績証明書あるいは履修証明書（出席証明書）と帰国後のレポート提出によって総合的に認定されます。

SA先での成績が不良の場合、単位は認定されません。また、帰国後の提出が課せられているレポートが未提出であったり、基準に著しく満たないレポートが提出された場合には、単位が認定されません。

SAプログラム以外の授業を履修した場合は、合計22単位を限度に卒業所要単位にRS評価として認定される場合があります（ただし、国際文化学部の教授会の審査が必要）。



1. SAスケジュール (予定)

この表は、入学後から、2年次のSA出発、帰国までの大まかなスケジュールです。下に書かれているガイダンス・説明会は、すべてがSA参加のために重要な内容となっています。日程はその都度、学

部・国際交流課よりメール等でお知らせしますので、必ず出席してください。

■ 1 年次

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
(1) SA 総合ガイダンス (2) SA 英語圏ガイダンス (3) SA 先別ガイダンス (4) SA 先希望登録 (5) 履修登録			(6) TOEIC®-IP 受験	(7) 英語圏SA先最終希望登録			(8) 英語圏SA先大学決定 (発表) (9) パスポート取得指示	(10) 入学願書記入 (11) 誓約書の提出、 レジストレーション フォームの登録			(12) ビザ・渡航 ガイダンス (3月以降海外への渡航 禁止)

■ 2 年次

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	(13) SA参加者 ガイダンス	(14) SA 奨学金申請	(15) 危機管理ガイダンス (16) SA 費用支払 (一括・分割 1 回目) (17) ビザ取得 (18) TOEIC®-IP 受験 (19) 直前ミーティング (20) SA 出国(8月上旬より順次)					SA 費用支払 (分割 2 回目) (21) SA 帰国 (12 月中旬より順次*) 帰国報告会			(22) TOEIC®-IP 受験

※スケジュールは変更になる場合があります。

(1) SA総合ガイダンス (1年次4月上旬)

SA主任教員、国際交流課によるSAについての全体的な説明を行います。

(2) SA英語圏ガイダンス (1年次4月上旬)

英語圏のSA担当教員によるSA出発前までの語学授業案内、SA先決定方法に関する説明やSA先の紹介を行います。英語圏希望の学生は必ず参加してください。

(3) SA先別ガイダンス (1年次4月上旬)

個別の留学先について先輩たちがSA先大学の様子や、事前の準備、現地での生活、学習などについて説明します。留学先を決定するうえで大切なガイダンスです。

(4) SA先希望登録 (1年次4月上旬)

希望するSA先大学を登録します。この時点で、英語圏に留学するか、諸語圏 (英語圏以外) に留学するかを決定します。

a 諸語圏を希望登録した学生は、SA先の大学も自動的に決定します。

b 英語圏を希望登録した学生は、英語圏への留学が決定となります。SA先希望登録では、自分が希望するSA先大学を記入しますが、あくまでも予備調査です。予備調査の結果は5月頃に公表され、最終的なSA先大学は9月に行われる「英語圏SA先最終希望登録」の後、所定のプロセスを経て決まります。詳しくは3ページ (7) (8) と4ページ2.を参照してください。

(5) 履修登録 (1年次4月中旬予定)

自分が希望するSA先と学習する言語は密接な関係があります。特に1年次の履修登録では、間違いのないように登録してください。詳しくは履修の手引・履修ガイドを参照してください。

(6) TOEIC®-IP受験 (1年次7月もしくは8月予定)

5ページ4.参照

(7) 英語圏SA先最終希望登録 (1年次9月予定)

4月に行われたSA先希望登録で、英語圏に登録した学生は、「最終希望登録」を行います。

(8) 英語圏SA先大学決定 (発表) (1年次11月予定)

英語圏では、各SA先の「希望人数」が「受入人数」を超えなければ、そのままSA先を決定しますが、超えてしまった場合は、5ページ3.の方法でSA先を選考します。なお、原則として、決定後の留学先の変更は認められません。

(9) パスポート取得 (1年次11月予定)

パスポートを各自取得します。パスポートの取得費用は各自の負担になります。

既にパスポートを持っている学生は、あらためて取得する必要はありませんが、更新が必要な場合は、更新手続きをしてください。

詳細はSA先大学決定時にお知らせします。

(10) SA先大学入学願書記入 (1年次12月～1月予定)

SA先大学別の入学願書の記入をします。申請書類は大学により異なります。詳細は国際交流課からお知らせします。

(11) 誓約書の提出、レジストレーションフォームの登録

SA参加にあたって、本人・保証人連署の誓約書を提出していただきます。また、留学に必要な情報（レジストレーションフォーム）の登録をSAポータルサイトから行います。

(12) ビザ・渡航ガイダンス (1年次3月～2年次4月予定)

留学する国によっては学生ビザを取得しなければなりません。ビザ取得のためには各種証明書や書類を準備する必要があります。必要書類は国によって異なり、証明書の取得には時間がかかる場合があります。必ず国別のガイダンスに出席し、期限内に書類を提出してください。詳細は国際交流課からお知らせします（ビザを取得する必要のない国でも現地で滞在許可証が必要な場合があります）。

以降、原則としてSA出発前まで、海外への渡航は禁止されます。

特別な理由によって留学ビザを取得後に海外渡航を希望する場合には、指定書類を事前に提出し、学部の承認を得てください。詳細は5ページ8.を参照してください。

(13) SA参加者ガイダンス

国際文化学部では、スムーズに留学先へ渡航し、安全な留学生活を送っていただけるよう、留学前・留学中に学生のみなさまに守っていただきたいルールを定めています。こうしたルールについて説明します。本ガイダンスは保証人の方もご参加いただけます。

(14) SA奨学金申請 (2年次6月予定)

SA奨学金＜6ページ (5) 参照＞を希望する場合には所定の申請が必要です。詳細は2年次5月頃、web掲示板で発表します。

※掲示内容を確認のうえ、不明点がある場合は学部窓口にお問い合わせください。

(15) 危機管理ガイダンス (2年次7月予定)

海外渡航中の注意事項（海外でのリスクマネジメント、ヘルスケアなど）や、海外旅行保険の内容の説明、渡航全般に関するガイダンスを行います。市ヶ谷キャンパスでSAプログラムに参加する学生全

員が対象です。保証人の方もご参加いただけます。

(16) SA費用支払 (2年次6月～7月予定)

SA費用（渡航費、海外旅行保険料、ビザ申請料含む）はSA先大学ごとに異なるため2年次の6月中旬頃から決定次第順次通知します。支払いは全額一括または分割払い（7月・12月）を選択することができます。**所定の期日までに費用の支払いがない場合、SAへの参加や単位認定ができませんので注意してください。**

(17) ビザ取得 (2年次6月～8月予定)

学生ビザの取得が必要な国については、旅行代理店が一括して、ビザの申請を行う予定です。国により大使館での面接が必須となります。

(18) TOEIC®-IP受験 (2年次7月もしくは8月予定)

5ページ4.参照

(19) 直前ミーティング (SA先ごとに実施)

出発の約2週間前に、直前ミーティングを行います。空港への集合時間や、その他渡航、留学に必要な直前情報を提供します。

またこの時に、SA期間中に使用するSAポータルサイトについての説明を行います（8ページ参照）。

(20) SA開始＜出国＞ (SA先により異なる)

(21) 帰国、帰国報告会 (SA先により異なる)

SA先大学ごとに一緒に出国・帰国します。

SAプログラムは法政大学の授業の一環であり、単独での出国、帰国は原則認められません。個人の希望による滞在延長なども原則認められません。体育会活動などの理由によってSA出国日時の変更を希望する場合は、指定書類を事前に提出し、学部の承認を得てください。詳細は5ページ6.を参照してください。

SA先によっては帰国報告会を行う場合がありますので、指導教員の指示に従って参加してください。

(22) TOEIC®-IP受験 (2年次3月予定)

5ページ4.参照

2. SA先大学の決定方法

- (1) SA自己推薦入試とSA先限定の指定校推薦で入学した学生は、出願時の留学先に留学することになります（変更不可）。ただし、留学先希望登録の手続きは必要です。
- (2) 英語圏の大学を希望登録した学生は、5ページを参照してください。
- (3) 諸語圏のSA先を1年次4月上旬に希望登録した学生は、全員希望する大学へ留学することができます。

- (4) 英語圏は11月、諸語圏は4月上旬にそれぞれSA先が確定します。原則として、決定後の留学先の変更は認められません。
- (5) **日本国籍以外の方は、国籍により査証（ビザ）の発給に時間を要する、もしくは審査が非常に厳しく、ビザが発給されない場合があります。その場合、SA先の選択肢が制限される、またはSAに参加できないことがあります。日本国籍以外の方は、事前に希望するSA先の在日大使館へ査証申請の可否を確認してください。**

3. 英語圏SA先大学の決定方法

留学先大学の受入人数には制限があるため、英語圏への留学を希望する学生については以下の方法により、留学先を決定します。

- (1) 1年次の9月に、「英語圏SA先大学最終希望登録」を行います。
- (2) 英語圏のSA先は、イギリス2大学、アメリカ3大学、カナダ3大学、オーストラリア1大学の合計9大学です。この9大学について第1希望から第9希望までを登録します。
- (3) 登録後の決定方法は次のとおりです。
 - ①全学生を第1希望のSA先大学に振り分ける。
 - ②振り分け後、希望者数がSA先大学の受入人数以内ならそのまま決定する。
 - ③受入人数を超えた場合は、「TOEIC®-IP（下記4）」、「1年次春学期英語の成績」、希望などで人数の調整を行う。

注) SA先の大学の中には、TOEIC®-IP、IELTSのスコアによって受入基準を設けているところがあります（リーズ大学、モナシュ大学）。

注) SA費用は、SA先大学によって異なります。調整の結果、第2希望以下でSA先が決定した場合、SA費用が第1希望の大学よりも高くなる場合があります。

4. TOEIC®-IPの受験について

英語能力の達成度をはかるため、学部生全員がTOEIC®-IPを受験します（1年次7月もしくは8月に実施予定）。この試験の成績は英語圏のSA先を決定する際の重要な資料となりますので、とくに英語圏へのSAを希望する学生は欠席することのないよう注意が必要です。

2年次7月もしくは8月と3月にも受験して、SA前と後での、英語能力の達成度の推移を確認することができます。

5. 国際文化学部SA参加条件

SAプログラムに参加する者は、以下の参加基準を満たしていなければなりません。

1. 2年次に進級していること。
2. SAプログラム参加の前年度終了時まで、**「ILAC科目4群のうち、留学先の言語科目」と「留学先の言語コミュニケーション科目」**の修得単位の合計が**4単位以上**あること。
3. SAプログラム参加年度における「春学期授業料等の学費」の支払が、所定の期日までに完了していること。
4. SAプログラムの費用の一括支払または分割1回目の支払が、所定の期日までに完了していること。
5. SAプログラム参加に関わる諸手続（各種書類の提出など）を所定の期日までに完了していること。

国際文化学部SA委員会ならびに教授会での審議を経て、SA参加を決定します。

病気やケガ、経済的理由などでSA参加が難しい場合は、国際文化学部窓口にご相談ください。

6. 出国・帰国について

SA先ごとにまとまって出国・帰国します。個人の希望によって単独で出国／帰国することは原則認められません。体育会活動などの理由によってSA出国日時の変更を希望する場合には、原則としてSAに参加する年度の5月31日までに以下の書類を国際文化学部窓口へ提出し、学部の承認を得てください。

- ①学生本人ならびに保証人がその理由を記した申請書（国際文化学部窓口で入手する）
- ②体育会活動などの場合、所属運動部の部長等が大会概要の詳細等を記した依頼書（各団体において独自に作成する）

7. 海外旅行保険について

法政大学ではSAに参加する学生全員に、大学指定の海外旅行保険への加入を義務づけています。大学が包括契約することにより保険料が割安になっています。補償内容等の詳細は危機管理ガイダンスで説明します。

8. ビザ取得について

1年次3月から各国ごとにビザガイダンスを実施します。ビザは旅行代理店が一括して代理申請します。SA先によっては、シングルビザを取得します。ビザ取得の必要のない国については渡航ガイダンスを実施します。

ガイダンス以降、SA出発前まで、原則として海外渡航はできません。

特別な理由によって留学ビザを取得後に海外渡航を希望する場合には、原則としてSAに参加する年度の5月31日までに、学生ならびに保証人がその理由を記した申請書を国際文化学部窓口へ提出し、学部の承認を得てください。申請書フォーマットは学部事務課で入手できます。

注) シングルビザとは、SAに伴う入出国を1度のみできるビザのことです。そのため、SA前にシングルビザを使用した場合、新たにビザを再申請する必要があります。

9. SAに係る費用・奨学金とSA先の情報（2019年度実績）

(1) 費用の内訳

7ページの表の費用は、2019年度プログラムにおける実績です。
法政大学に支払う学費とは別に必要となります。（2年次の法政大学学費は春学期分のみで、秋学期分の支払いは不要です。）この費用に含まれるのは現地授業料、宿泊費、往復の渡航費、ビザ取得の費用、海外旅行保険料です。この費用はSA先の国や大学、期間等によって異なります。また、**為替レートにより、円換算後の金額が大きく変動する可能性があります。**これらの費用には、SA先によって食費が含まれていない場合もあります。なお、別途教材費や通学費、予防接種費用等がかかる場合があります。ご不明な点は国際交流課にお問い合わせください。

注1) 7ページの表の費用は、2019年度プログラムの「**実績金額**」です。2021年度入学生（2022年度SA参加者）の費用は、SA先大学に支払うプログラム費用の上昇、為替レート、航空運賃・保険料などの影響により変動します。

注2) 学生ビザ取得の際に、SA先の国によってはSA留学中の経費支弁能力を証明するために金融機関の「**残高証明書（銀行・郵便局等）**」を提出する必要があります。これは各国Immigration（入国管理局）および大使館の指示によるもので、**2019年度実績は、イギリス£3,045～£5,075以上（大学により異なる）、アメリカ120～230万円以上（大学により異なる）、フランス4,773ユーロ以上、スペイン60万円以上、ドイツ4,320ユーロ以上**が「残高証明書」の目安となりました。
各国の申請条件は**予告なく変更となる場合がある**ので、1年次3月以降に実施する学生向けの「ビザガイド」においてお知らせします。

注3) SA先大学は、様々な事情により**予告なく変更になる場合があります。**

注4) 同一大学において、宿泊施設または宿泊形態が複数ある場合には、もっとも低いものと、もっとも高いもので算出しています。なお、複数の寮がある場合、希望の寮に入れるとは限りません。また、SA先によっては宿泊費が現地払いとなります。

注5) ボストン大学に行く学生は、マサチューセッツ州の法律によって、**出発前に指定医療機関での各種予防接種が義務づけられています。**それらの予防接種は、健康保険対象外です。また、接種後に英文での健康診断書の作成などもあるため、**8～10万円程度の費用が必要です**（7ページの表の金額には含まれていません）。

(2) 支払いスケジュール、支払い方法

SA費用の案内は、2年次の6月下旬以降、SA先ごとに順次保証人宛にお送りします。振込用紙の送付をもって、SA費用の確定とし、「一括払（7月）」か「二分割払（7月・12月）」のどちらかを選択してい

たきます。

なお、所定の期日までに費用の支払いがない場合、SAへの参加や単位認定ができませんので注意してください。

(3) 現地での支払いについて

SA先によっては、寮やホームステイ費を現地にて直接支払う場合がありますが、7ページの表の「SA先からの請求額」には、それらの宿泊費を含んでいます。

(4) 教育ローン

法政大学ではSA費用を含め学費の支払いのために、国の教育ローンの紹介をしています。詳細は学生センター厚生課（Tel.03-3264-9488）へお問い合わせください。

(5) 国際文化学部SA奨学金について

国際文化学部SA参加者には3種類の奨学金制度が用意されています。詳細は2年次5月頃学部掲示板でご案内します。掲示内容を確認のうえ、不明な点は国際文化学部窓口へお問い合わせください。

①奨学金A 25万円

対 象 国際文化学部SAプログラム参加者
給付方法 2年次6月頃から保証人宛に請求するSA費用から減額（申請者全員に一律で給付）

②奨学金B 上限60万円（SA先によって異なります）

対 象 学業成績が優秀であるが経済的理由によりSAへの参加が困難な者
人 数 選考により決定（2019年度実績：58名）
申請時期 2年次6月を予定（詳細は別途掲示板等で連絡）

③奨学金C 上限60万円（SA先によって異なります）

対 象 学業成績に関わらず経済的理由によりSAへの参加が困難な者
人 数 該当者全員（2019年度実績：4名）
注）ただし、選考を実施します。選考において受給不適切と判断された場合には受給資格が取り消されることもあります。
申請時期 2年次6月を予定（詳細は別途掲示板等で連絡）

注）大学が指示する報告書や届出等が提出されない場合、奨学金受給資格が取り消されることもありますので、注意してください。

※SAプログラムのキャンセルについて

SA参加費用のうち、現地の授業料や宿泊費用などについては、現地機関から請求された「外貨」での費用を参加年度の4～6月頃に大学が立て替えて海外送金します。また、旅行代理店による航空券手配等が3月下旬頃から順次開始します。

そのため、1年次3月下旬以降、万一やむを得ない事情、または国際文化学部教授会によりSA参加の延期または取り止めが決定された場合、現地機関や旅行代理店の規定によるキャンセル料に加え、返金にかかる手数料、それに伴う為替差損などが発生することがあります（これらのキャンセルにかかる費用は、参加キャンセル者の負担となります。）

2019年度実績

大学名 (SA期間)	受入機関	プログラム形態	宿泊施設	授業料・宿泊費・ 空港送迎費 ^① (SA先機関からの請求金額)	渡航・ビザ費・ 保険料ほか ^②	合計 ①+②
イギリス						
シェフィールド大学 (9月下旬～12月下旬)	English Language Teaching Centre	既存12週間 (一部オリジナル 含む)	ホームステイ	854,412円 (GBP6,195)	270,710円	1,125,122円
リーズ大学 (10月上旬～2月下旬)	The Language Centre	既存17週間	学生寮	1,141,335～ 1,433,860円 (GBP8,697～10,926)	292,690円	1,434,025～ 1,726,550円
アメリカ						
カリフォルニア大学デイヴィス校 (8月上旬～12月中旬)	UC DAVIS EXTENSION	既存14週間	ホームステイ	1,134,143円 (USD10,340)	374,460円	1,508,603円
ミシガン州立大学 (8月中旬～12月中旬)	English Language Center	既存15週間 (一部法政オリジ ナル含む)	学生寮+ ホームステイ(週末)	1,611,962円 (USD14,607)	361,260円	1,973,222円
ボストン大学 (8月下旬～12月中旬)	Center for English Language and Orientation Programs (CELOP)	法政3週間+ 既存12週間	学生寮	1,939,907円 (USD17,565)	341,390円	2,281,297円
カナダ						
ヨーク大学 (9月上旬～12月下旬)	York University English Language Institute(YUELI)	既存16週間	ホームステイ または学生寮	965,609円 (CAD11,585)	263,550円	1,229,159円
トレント大学 (9月上旬～12月上旬)	Trent-ESL	既存13週間	学生寮	924,923円 (CAD11,154)	263,550円	1,188,473円
ブロック大学 (9月上旬～12月中旬)	ESL Services	既存14週間	ホームステイ	675,585円 (CAD8,260)	263,550円	939,135円
オーストラリア						
モナシュ大学 (8月中旬～12月中旬)	English Language Centre	法政1週間+ 既存15週間	ホームステイ	1,065,069円 (AUD13,775)	274,710円	1,339,779円
ドイツ						
ロイファナ・リューネブルク大学 (9月上旬～2月下旬)	ロイファナ・リューネブルク 大学	サマーコース 既存5週間+ 法政オリジナル 17週間	フラットシェア	1,097,119円 (EUR9,020)	331,680円	1,428,799円
フランス						
西部カトリック大学 (9月中旬～2月上旬)	国際フランス語研究センター (CIDEF)	法政2週間+ 既存16週間	ホームステイ	874,468円 (EUR7,027)	332,060円	1,206,528円
ロシア						
ペテルブルク国立交通工科大学 (9月上旬～2月上旬)	ロシア語センター	既存20週間	学生寮	373,071円 (EUR2,998)	230,240円	603,311円
中国						
上海外国語大学 (9月上旬～1月上旬)	国際文化交流学院	既存16週間+ 法政1週間	学生寮	436,073～ 536,558円 (CNY27,340～33,640)	172,370円	608,443～ 708,928円
スペイン						
バルセロナ大学 (8月下旬～2月上旬)	スペイン文化研究所	法政1週間+ 既存17週間	学生寮・民間寮	867,533～ 1,232,248円 (EUR7,070～9,989)	284,785円	1,152,318～ 1,517,033円
韓国						
韓国外国語大学 (8月下旬～2月中旬)	韓国語文化教育院	既存20週間	学生寮	500,955円 (KRW5,524,666)	165,290円	666,245円

- ・各大学とも受入機関で学習することになります。
- ・プログラム形態の「既存（授業）」とは、受入機関で編成している授業で、他国からの留学生も参加します。
- ・プログラム形態の「法政（オリジナル授業）」とは法政大学の学生のために特別に編成した授業で、原則、本学の学生のみで受講します。ただし、参加者が少人数の場合、プログラム内容が変更になることがあります。
- ・プログラム形態の「法政〇週間」授業は、参加人数によって期間などが変更になることがあります。
- ・教科書代は授業料の中には含まれておりません。
- ・上記費用は2019年度実績であり、2022年度の期間・費用をお知らせするものではありません（6ページ参照）。なお、カリフォルニア大学デイヴィス校は、2021年度実績にあたり、期間を9月下旬～2月中旬に変更する予定で、費用も上記①と比して約USD1,300の値上がりが見込まれています（2022年度の期間・費用は未定です）。



SA期間中に行うこと

SA 期間 中

SA期間中、以下の提出が義務づけられています。

1. 月例報告

SA期間中、月例報告の提出が月に1度義務づけられています。報告するのは、①学習状況、②生活状況、③事件・事故、④その他です。体調面の不調など、気になることもここで報告することができます。

2. 旅行届

SA期間中にSA先を離れる（旅行を含む外泊をする）場合、所定の期日までに旅行届の提出が義務づけられています。旅行先や日程、緊急連絡先などを記入し、提出してください。未提出で旅行に行くことは固く禁止されています。

3. 連絡先の登録

SA先到着後、すぐに現地で連絡が取れる電話番号をレジストレーションフォームに登録してください。



SAポータルサイト [https://hosei-ryugaku.net/]

ポータルサイトのログインに必要なIDとパスワードは、SA先決定後にお知らせします。ポータルサイトには、月例報告や旅行届の提出の他に以下の機能もあります。SA期間中は1日に一度は必ずポータルサイトにアクセスしてください。

【問い合わせフォーム】

SA期間中、困ったこと、悩み、質問事項や要望、大学に知らせておきたいことなどがあれば、お知らせください。内容に応じて、教員・学部担当・国際交流課より必ず返信します。

【ニュース】

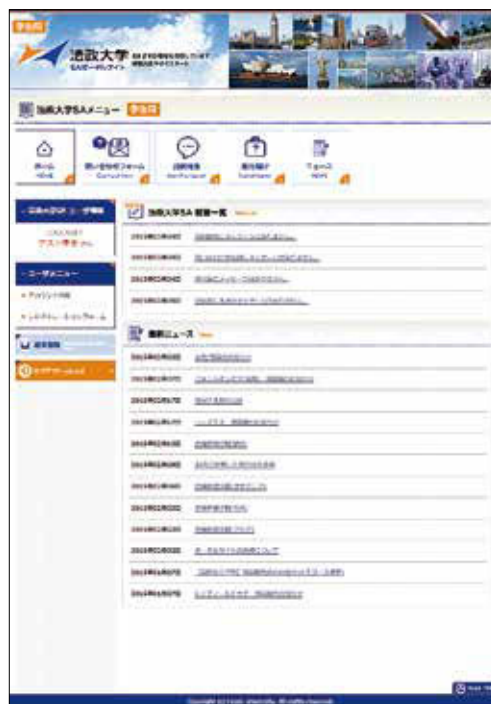
大学からの重要なお知らせを、ニュース欄に掲載しています。SA先到着後、旅行中、帰国前の注意点、帰国便のお知らせ、危機管理情報などを発信しています。

【送受信箱】

学部別・SA先別の重要なお知らせを発信しています。

ホームステイ先情報のお知らせなど個別連絡にも利用します。

※渡航前に行う手続きとして「レジストレーションフォーム」の登録があります。





3 帰国後に行うこと

帰 国 後

帰国後、以下の提出が義務づけられています。

1. 帰国レポート

SA先ごとに設定された課題についてのレポートを提出します。担当教員からの指示に従って作成・提出してください。**SAで修得する単位に関わる非常に重要な課題です。**2ページ5.参照

2. SA自己評価シート

帰国後2週間以内の提出が義務づけられています。SA先での外国語学習を振り返り、その言語を使って何ができるようになってきているかを帰国した時点で確認するためのシートです。

3. SA体験記

帰国後2週間以内の提出が義務づけられています。SA先でどんな経験をしたかを振り返り、異文化体験をより明確に認識するために作成します。また、SAに行く後輩への情報提供にもなります。



4 オフィスアワー

SAに限らず、学習、授業内容等に関することは、教員がオフィスアワー内で対応します。遠慮なく教員の研究室を訪ねてください（各教員のオフィスアワーは「履修の手引き」を参照）。

なお、SA先大学ごとに指導する国際文化学部教員がいます。担当教員の名前はweb掲示板でお知らせします。

どの教員に相談すれば良いかわからない時には、国際文化学部窓口へお問い合わせください。



5 SA以外の留学制度

① 派遣留学制度について

3年次または4年次に、法政大学の海外協定大学へ半期または1年間留学できる制度です。留学中に修得した単位は帰国後に審査の上、卒業単位として認定されます。派遣留学生には、派遣先大学により70～100万円の奨学金が支給されるほか、留学先での授業料が全額免除されます。派遣留学生となるためには、グローバル教育センターで実施される選考試験に合格する必要があります。

国際文化学部生が、3年次に派遣留学生となるための選考を受けるには、SA出国前に手続きをする必要があります。

② 認定海外留学制度について

本学の2年生以上の学生が留学先大学（学位授与権を有する正規の高等教育機関）を自分で探して、その大学から入学許可を得て本学に申請をし、学部の許可を得て留学する制度です。留学期間中の学籍は「留学」となり、留学期間（半期または1年間）は修業年限に含まれます。また、留学先大学で修得した単位は帰国後の学部審議を経て本学の単位として認定します。

派遣留学、認定海外留学制度についてはグローバル教育センター国際交流課窓口で相談してください。

③ 短期語学研修制度について

夏季休暇中と春季休暇中に、英語、中国語、朝鮮語、ドイツ語、フランス語の語学力の強化のため、2週間から4週間程度実施する短期語学研修制度があります。語学レベル、GPAなどに関係なく留学が可能であり、初めて海外に行く方にも推奨しています。個人の語学力に応じたレベル別の授業を行っており、初心者でも上級者でも語学力の向上に活かすことができます。また、単位認定・卒業所要単位への算入も可能です。

なお、2020年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により各協定大学（朝鮮語を除く）によるオンラインプログラムを実施しました。2021年度も一部研修先でオンラインプログラムを実施予定です。

短期語学研修制度についてはグローバル教育センター国際交流課窓口で相談してください。



6 グローバル教育センター 国際交流課

国際交流課では、主に渡航関係、寮やホームステイなど現地での生活に関する事柄を中心にSAに参加する学生をサポートします。SAについて不明な点、不安な点があれば、**グローバル教育センター国際交流課**に相談してください。

● SAについての連絡

ガイダンスの日程などSAに関する情報は、原則として大学から付与されている個人のEメールアドレス（@stu.hosei.ac.jp）でお知らせします。また、必要に応じて以下の方法でも連絡します。

- ・ 掲示板
- ・ 郵送
- ・ Facebookページ
- ・ お知らせ配信

なお、留学前や留学中は大学から付与されている個人のEメールアドレスに連絡しますので、定期的にチェックしてください。

提出物等は必ず指定された期限内に提出してください（期限内に提出されなかった場合、SA奨学金の受給資格が取り消されたり、SAに参加できなくなることがあります）。

● 国際交流課SA担当のソーシャル・メディア



Facebookページ

<https://www.facebook.com/HoseiSAcenter>

Facebookページでは各SA先の様子を写真で紹介しています。

法政大学グローバル教育センター国際交流課

〒102-8160 東京都千代田区富士見2-17-1（大内山校舎2階）

Tel : 03-3264-9408 Fax : 03-3264-9256

E-mail : sapro@hosei.ac.jp

【窓口時間】

月～金 9：00～17：00（11：30～12：30を除く）

土曜日 9：00～12：00



SA先大学紹介・SA体験談



United Kingdom

イギリス

THE UNIVERSITY OF SHEFFIELD

シェフィールド大学

1 受け入れ機関…The English Language Teaching Centre

2 大学および周辺の紹介…シェフィールド大学はその歴史的伝統においても、また現在の学生数や施設の点においても英国で十指に入る名門大学である。また同大学は1905年に地域貢献を目指して医学、工学などの高等教育機関が前身となって設立された。現在は文学・社会科学・法律・建設・理学・工学・医歯学などの学部、大学院から成る総合大学となっている。

また、シェフィールド大学のあるシェフィールド市はロンドンから北西に約200kmに位置し、人口は約70万人の都市で、かつての産業革命の発祥地としても有名で、鉄鋼・金属工業等の産業都市として発展してきた。

市内は公園や森林に富んでおり、また郊外の美しい田園地帯の先には、18世紀初頭以来山岳風景で名高いピークディストリクト国立公園があり、環境の良いことでも有名である。

3 特色…授業は2種類あり、一つはELTC (English Language Teaching Centre) の英語授業で、能力別のクラスに分かれ、他国留学生と机を並べて、オール・ラウンドな訓練を受ける。内容はアカデミックなものが中心となる。

もう一つとして、特別なカリキュラムによる英国研究の講義授業を受ける。講義といっても一方的なものではなく、受講生が積極的に質問・発言することが求められる。

また予習・復習の時間がたっぷり取ってあるのもシェフィールドの特色となっている。

4 宿泊施設…ホームステイ



シェフィールド大学SA体験談

イギリスを“知った”3か月

山口 大貴

SA先のシェフィールドは、二つの大学を有する学生街です。そのため、街の中心にはSA先大学であるシェフィールド大学の施設が並び、街の多くのお店では学生割引が存在し、とても学生として住みやすい街であると感じました。3か月の留学の期間を通し、イギリスを深く知ることができました。

語学学校では、午前は英語を学び、午後はレクチャーという授業を受けました。レクチャーでは、曜日ごとにイギリス文化や社会など違ったトピックについての講義をすべて英語で聞きました。一日でイギリス英語や生活、歴史などを学ぶことができ、毎日イギリスについて学ぶ新鮮な日々でした。またクラスメートはトルコ、スペイン、韓国など世界から英語を学ぶ目的で来た学生たちだったので、イギリス文化だけでなくその国の文化も同時に学ぶことができ、とても楽しかったです。

ホームステイだったので、ホストファミリーと生活を共にする中で、イギリスのテレビ番組、食事、教育などについて理解を深めることができ、特にSA先の地域にしかない方言を学ぶことができたことは貴重な体験でした。また、僕のSA期間中、選挙やストライキなど様々なことがあったので、ホストファミリーと一緒にニュースを見ながら議論したことは楽しかったです。

休日は、ロンドンなどの観光地に行っていました。ロンドンにはルーマニア人の友達がいたので、僕と同様に英語が第二言語である彼と英語で話すことがとても刺激になりました。

一つ留学前にすべきこととして、SAへの準備としての英語学習が大事であると思いました。イギリスでできないことを存分に楽しむため、日本でできる限りの英語学習をした分、留学先での時間がより濃密なものになると感じました。後悔なく楽しい留学を皆さんが経験できることを願っています。



▲スクールトリップで行った国立公園で学校のクラスメート、先生と



▲ロンドンの大学に通うルーマニア人の友達とクリスマスパーティーにて



▲韓国人のドミトリで行った食事会にて日本人&韓国人の友達と



イギリス

UNIVERSITY OF LEEDS

リーズ大学

1 受け入れ機関…The Language Centre

2 大学および周辺の紹介…1904年にLeeds School of MedicineとYorkshire College of Scienceの合併により設立されたリーズ大学は、シェフィールド大学やマンチェスター大学と並び「赤レンガ大学」と呼ばれる英国屈指の名門大学として有名である。現在、世界170カ国以上から約9,000人の留学生が学び、大学の提供する留学生へのサービス、サポートには定評がある。

ロンドンから列車で約2時間半の距離に位置するリーズは、美しいリーズ大学キャンパスを中心とした学園都市で、大学近くにはショッピング・モールのほか、多数のレストランやカフェがある。ショッピングモールやパブのある市の中心街は夜も人通りが絶えず、活気にあふれている。

3 特色…履修するコース、Academic English for Undergraduate Studies Pre-sessional Programmeでは、日常レベルの英語能力向上はもとより、論文の読み方、図書館・資料の使い方、プレゼンテーションや議論の仕方など、よりアカデミックで多岐にわたるスキルを習得できるようにオリエンテーションや授業が設定されている。また、各個人の目標や興味に応じた多数の選択科目も用意されている。

なお、このコースに参加するためには、TOEIC®-IP530点以上のスコアが基準となっている。

4 宿泊施設…学生寮（食事つき・食事なし）



リーズ大学SA体験談

リーズの5か月

細川 友佑

リーズ大学は、イギリスの中央に位置しており、交通の便もよく、とても過ごしやすい環境の下で留学することができます。

授業面に関しては、AEUSという学術で使われる高度な英語を学ぶことができます。授業内容に関しては、プレゼンテーションやディスカッションがあり、クラスメイトと積極的な交流が求められます。また、新聞を読むことや小論文を書く課題が多く与えられるため、英語の4技能が自然と身につくようになります。

1クラスは15人ほどで、様々な国の留学生と一緒に学びます。多くの学生が自発的に発言しており、グループワークの際は議論が活発になされます。宗教や文化が違い、自分の知らなかったことの発見がとても印象的です。

私は、リーズで寮生活をしていました。自分の部屋があり、キッチンヨーロッパの学生と6人で共有します。ピザパーティーやお菓子パーティーなどフラットメイト同士で触れ合える機会があるため、楽しく生活ができます。

また、リーズ大学の最大の特徴はイベントやサークル活動が豊富にあることです。私はJapanese SocietyとVolleyball Societyに所属していました。Japanese Societyは、日本に興味がある人が所属しており、漫画などの日本文化について英語で会話をします。Volleyball Societyは、言葉の壁を越えて仲良くなれます。どちらも交流があり充実した時間を過ごせました。

留学中には冬期休暇が4週間ほど設けられます。日本よりも交通手段が安く、欧州の文化や歴史的建造物に触れられた経験は深く印象に残っています。

英語を学ぶことは勿論、海外の友達と遊んだり、世界遺産を回ったり、人生でかけがえのない経験になりました。これから国際文化学部でSAを経験される皆さんが楽しく過ごせることを願っています。



▲SAリーズでの成人式



▲お好み焼きパーティー



▲金曜日のビリヤード



▲ハロウィーンの仮装

UNIVERSITY OF CALIFORNIA, DAVIS

カリフォルニア大学デイヴィス校

1 受け入れ機関…UC Davis Extension

2 大学および周辺の紹介…カリフォルニア大学群のひとつとして1905年に開校され、当初は農学部のみであったが、年々拡大の一途を辿り、大規模大学へと変身を遂げた。今日でも農学の分野は全米でも屈指の評価を得ている。また、エスニック研究も盛んでデイヴィス校の大きな魅力のひとつとなっている。キャンパスは非常に広大で、教室間の移動には自転車を利用する学生が多く、スケールの大きいキャンパス・ライフを楽しむことができる。大学のあるデイヴィス市は、カリフォルニア州都のサクラメントにほど近く、フレンドリーで気さくな、治安の良い大学町として知られている。また、サンフランシスコからは車で約1時間半ほどの距離にある。町中には自転車専用道路が数多くあり、キャンパス外でも自転車は最も便利な交通手段となっている。

3 特色…学生はAcademic Engagement Track(AET)の科目を履修する。期間は秋期10週間(5週間×2)と、冬期5週間。Academic Literacy, Academic Researchなどの主要科目と、Media and DiscussionやU.S. Society and Cultureなどの選択科目を自由に組み合わせることができる。ゲストスピーカーによる講義やディスカッションが随時行われる他、UCデイヴィス校東アジア言語・文化学部が主催する「日本語会話アワー」に参加するなど、現地の学生と交流する機会も多数用意されている。

4 宿泊施設…ホームステイ



U.S.A

カリフォルニア大学デイヴィス校SA体験談

かけがえない4カ月

齋藤 唯一

アメリカの中でも特に多様な人種の人々によって構成されているカリフォルニアの中で、比較的治安の良い都市にあるのがUCデイヴィスです。LAやSan Franciscoはもちろん、大学周辺には多くのカフェもあり、冬の一時的な雨季を除いては雨がまったく降らず乾燥しているため、とても過ごしやすい都市です。UCデイヴィスはホームステイであり、ホストファミリーは本当に優しく、まるで本当の我が子に接してくれました。何一つ揉め事は起こらず、帰国した現在でも週に1回程度ビデオ通話をし、いつでも帰っておいでと声をかけてくれます。そんな素晴らしいUCデイヴィスでの暮らしの中での授業は、授業が始まる前に受けるテストによりレベル別にクラス分けされます。そのため、難易度としては少し難しくなりますが、英語能力の向上に最適な授業でした。宿題にかかる時間は長くて2時間程度であるため、自らの英語学習や、大学内のサークルなどの活動に参加することが出来、その点がUCデイヴィスの最大の魅力と考えます。私は授業後にカンパセーションや現地のサークルに参加することで現地の友人を増やし、結果的には200人近くの友達と出会えました。これにより予定のない授業後や休日は、自らカンパセーションやパーティーを主催するなどして英語漬けの日々を送ることができたため、自身の英語力を格段に上昇させることが出来ました。SAを終えて再確認できたことは何事も自分次第ということです。デイヴィスは特に自由時間がしっかりとあるため、その時間を使えるかは自分次第となります。何事身にも好奇心を持ちチャレンジすることで、最高の友人に巡り合うことができ、かけがえない時間を過ごすことが出来ました。



▲カンパセーションクラブのメンバー



▲みんなが書いてくれた寄せ書き。裏面もびっしり



▲ホストマザーとの写真



▲現地の最高の友達



U.S.A

アメリカ

MICHIGAN STATE UNIVERSITY

ミシガン州立大学

1 受け入れ機関…The English Language Center

2 大学および周辺の紹介…ミシガン州立大学は、1855年に創立され、全米屈指の学生規模を誇る州立の総合大学である。教育研究の分野で全米をリードし、パブリック・アイビー（アイビー・リーグ大学レベルの教育を受けられる公立の名門大学の総称）の一つに数えられている。またスポーツの強豪としても知られ、フットボール、アイスホッケー、バスケットボールをはじめ、各種スポーツ活動が非常に盛んである。

大学が所在するイーストラシングは、州都ランシングに隣接し、大都市シカゴとデトロイトの中間に位置する。自然に恵まれた学園都市で、街には大型ショッピングモールやエンターテインメント施設もある。

キャンパスは山手線内側の半分ほど（約30平方キロメートル）もあり、ミシガン州にある州立大学の中で最も規模が大きく、有名である。7万人収容のスタジアムをはじめ、博物館、美術館、プラネタリウム、劇場、ホテル等、施設の充実が特筆に値する。

なお、ミシガン州立大学はミシガン大学とは異なる組織である。

3 特色…Reading, Writing, Listening, Speakingなどの語学授業とアメリカの社会、文化などの講義科目が毎年開講されている。また、英語のスコア（TOEFL®等）が満たされ、かつ現地にて参加が認められた場合には、既存の上級英語クラスの授業に参加することもできる。

4 宿泊施設…学生寮（プログラムの一部にホームステイ）



ミシガン州立大学SA体験談

広大な土地と国際色豊かなミシガン

西本 昂平

ミシガン州立大学は敷地内が広く、バスが通っており一つの街のようでした。現地の学生は勉強熱心で登校にバスや自転車、スクーターやスケートボードを使っており、私たちの中にもスケートボードを使う人がいました。日本を好きな学生もいてくれて、その人たちとの交流もあるし、寮の近くに様々なスポーツをできる場所や施設があるので、そこで出会う人たちも多くなります。非常にフレンドリーですぐに仲良くなれ、一緒にご飯に行ったりと色々な経験が積めました。

寮は2人部屋で現地の学生と過ごします。相手は英語を話せるので、はじめの方は気を遣ったりしんどく感じるかもしれませんが、徐々に慣れ始めると何気ない会話などが楽しかったです。ホームステイはそれぞれの家庭で全く違う体験ができます。たくさんの場所に連れて行ってもらったり、家でスポーツ観戦をしたり、いつも週末の楽しみが大きかったです。共通することはアメリカ人ほとんどの人がアメリカンフットボールを好きなことです。

授業に関して、前半は聞き取るのにまず苦労しますが、その集中で夜は熟睡できます。後半は聞き取ることに慣れて、留学生同士との会話もスムーズになり楽しいです。ただ朝が早い。イベントはハロウィンが印象的でした。全員が仮装をしてハロウィンを楽しむので、私たちも負けずに頑張りました。超楽しかったです。

アメリカ留学は多くの国からの留学生とも交流できて、アメリカを始め、世界の色々な文化を知ることが出来ます。それによって価値観が広がり、様々な問題を一側面からではなく、多くの観点から見る事が出来て、新たな発見や知らなかったことなどを身につける事が出来ました。

今後はSAで身につけた勉強習慣や世界基準の勉強への取り組み方を忘れずに、続けていきたいと思います。

国際文化学部は入学してすぐに、SA経験者のガイダンスがあり、それぞれのSA先で良い部分とここはあんまりといった部分があるので、ぜひ多くのガイダンスに参加して実際の声を聞いてみてください！ ちなみにミシガン州立大学オススメです！



◀マキナックアイランド島でのサイクリング



▲JCRの集合写真



◀大学バスケット観戦でモニターに映った写真

BOSTON UNIVERSITY

ボストン大学

1 受け入れ機関…Center for English Language and Orientation Programs (CELOP)

2 大学および周辺の紹介…ボストン大学は150年以上の歴史を誇り、国際的にも高い評価を受けている全米でも指折りの総合大学である。大学はチャールズ川沿いの歴史あるたたずまいの中に位置している。また、全米はもとより世界139ヵ国から10,000人以上の留学生を受け入れており、キャンパスは国際色に溢れている。チャールズ川の対岸は、ケンブリッジ市で、ハーバード大学やマサチューセッツ工科大学（MIT）も近い。

大学のあるボストンは17世紀初めに、イギリスで宗教的に迫害された清教徒たちが新天地を求め創った街で、古いヨーロッパ風のレンガ造りの家々と高層ビルが混在し、古めかしさと新しさが独特な調和をみせる街である。現在ではアメリカ屈指の学園都市になっている。市内には、ボストン・コモンと呼ばれる大きな公園があり、読書をする人、スケートボードをする人など人々の憩いの場所となっている。ボストン美術館など文化施設も充実、スポーツでは、大リーグ球団レッドソックスが有名で、フェンウェイパークは大学のすぐ近く、ホームゲームがあるときは応援の飛行船が飛ぶ。

3 特色…国際文化学部はボストン大学のCELOPの授業を受けることになる。CELOPは外国人留学生のために特別に編成されるプログラムで英語能力の向上をはかることはもちろんのこと、アメリカで留学生を送るうえでのオリエンテーションも行っていることがこのプログラムの特徴であり、留学生向けプログラムとしては長年の定評と実績を誇っている。

4 宿泊施設…学生寮



U.S.A

ボストン大学SA体験談

歴史あるボストンで

浅沼 みのり

ボストンはアメリカの中でも有数の歴史ある都市で歴史的建造物や博物館、美術館が多く存在しています。そのほかにもおしゃれなショッピング街やチャイナタウン、ボストンレッドソックスの球場もあり十分に観光が楽しめる魅力的な街です。またボストンはボストン大学を始め、世界的に有名なハーバード大学やMITなど多くの大学のキャンパスがある学術都市でもあります。そのため比較的に治安がよく、様々な国からの留学生がおり、異文化に対して寛容でリベラルな雰囲気がありました。

ボストン大学のプログラムは寮生活となっています。私の住んでいた寮は600人ほどの学生が住む大きな寮で、食堂やランドリー、自習室などがありました。どの寮も部屋は主に2人～4人部屋です。ルームメイトとよい関係を築いて、一緒に遊びに行く人もいれば、時に生活リズムの違いや文化の違いからルームメイトとうまくいかないこともありました。寮生活では良いことも悪いことも含め自分の常識を広げてくれる貴重な経験になると思います。

学校はボストン大学の中にある語学学校に通い、英語4技能の基本的な授業とひとつ選択科目の授業を選んで受けます。語学学校の先生やスタッフの人たちは皆優しく親切だったので困ったことがあるときは相談していました。クラスメイトたちもお互いに仲が良く、放課後には一緒に街にあるお互いの国のレストランに行ったり、ショッピングに行ったりしていました。

私自身このように海外に長期滞在したのは初めてだったのですが、日本を出て外国で暮らしてみないと気づかなかったことがたくさんあり、日本を外から客観的に見るのが出来ました。一つ感じたことは、つたないながらも恥ずかしがらず、積極的に英語を話すことが習得の早道ということで、また話すことによって自信もつきました。是非SAに参加した際には、外国でしかできない貴重な経験を大切に、適度に休憩しつつ色々行動してみてください。



▲日本語を学ぶボストン大学の学生たちと日本語の先生



▲剣道サークルの試合で



◀ボストン茶会事件のミュージアム前



Canada

カナダ

BROCK UNIVERSITY

| ブロック大学

1 受け入れ機関…ESL Services

2 大学および周辺の紹介…ブロック大学の名称は、イギリス陸軍の将軍であり、イギリスの植民地であったアップパー・カナダの統治者「アイザック・ブロック」にちなんでつけられている。大学の設立は1964年と比較的新しいが、州立大学として地域の高等教育機関として果たす役割は大きい。キャンパスは、世界的な観光名所として有名なナイアガラの滝のあるオンタリオ州セントキャサリンズにある。セントキャサリンズは、アメリカ・バッファローとカナダ・トロントの中間に位置しており、冬は雪が多いものの交通の便もよく自然豊かな美しい町である。

3 特色…履修するコースは、カナダの大学進学希望者向けにプログラムされたもので、14週間（週25時間）にわたって学ぶものである。授業内容は、語学学習（スピーキング、リスニング、ライティング、リーディング、グラマー）を中心に学び、そのほかビジネス英語、ポピュラーカルチャーなどの選択科目もある。

4 宿泊施設…ホームステイ



ブロック大学SA体験談

毎日充実していた3ヶ月半

前田 茜

ブロック大学は、カナダのセントキャサリンズという街にあり、近くにはナイアガラの滝や、アウトレットモールなどがあります。私たちはブロック大学内にある語学学校（IELP）に、ホームステイ先の家からバスで通いました。

ホームステイなので、ステイ先では英語を使う機会が多く、そのおかげで英語力を伸ばせたと思います。語学学校には、アジアを中心にいろいろな国からの留学生がいたので、いろいろな母国語の人と英語を通して会話を楽しむことができました。さらに、学校のプログラムとして、カンパセーションパートナーというブロック大学の学生と英会話学習のためのパートナーを申し込むこともできるので、今後SAで行かれる方はぜひ活用してください。

授業は最初に受けるテストのレベルによって分けられたクラスで受けるので、自分にあったレベルの授業を受けられます。そして他にも、学校のプログラムとして、ナイアガラの滝への観光やワイナリーツアーがあるので、カナダを感じる体験もできて、とても楽しめました。

また学校内にも、ジムやプールなどの施設が充実しているので、放課後や空きコマの時間も活用できます。ダウントウンにはいろいろな飲食店やお店があって、日本食レストランや韓国料理もあったので、いろいろな国の料理を楽しめました、地元で人気の美味しいドーナツ屋さんがおススメです。

他にも、リーディングウィークという一週間ほどの休暇があるので、そこでトロントやアメリカなどへの旅行を楽しむこともできます。ここでの生活全てがわたしにとっては新鮮で、楽しい3ヶ月を過ごせました。



▲クラスの集合写真



▲大学のプログラムであるグレープスタンプ



▲カンパセーションパートナーとの写真

TRENT UNIVERSITY

トレント大学

1 受け入れ機関…TRENT-ESL

2 大学および周辺の紹介…トレント大学はカナダを代表する小規模な大学として広く知られており、学部の人材教育のグループ教育には定評がある。また、約80の国々から集まった数多くの留学生が学んでいる。キャンパスは、カナダ・トロント中心部からバスで2時間弱のオンタリオ州ピーターボローに位置し、カナダの大学で最も広い自然保護区域を保有していることもあり、極めて豊かな自然環境のもと、落ち着いて勉強できる環境が整っている。

3 特色…履修するコースは、Trent-ESLという留学生向けの英語プログラムで、12週間（週25時間）にわたり、会話、聴き取り、発音、文法、読解などの語学学習のほか、受講生のレベルによって各種アカデミックスキル（講義の聴き方、ノートの取り方、ディスカッション、プレゼンテーション）などを学ぶこともできる。また、現地到着後すぐにTI Orientationというオリエンテーションが行われ、留学生や現地の学生との交流の機会が設けられていることも特徴である。

4 宿泊施設…学生寮



トレント大学SA体験談

精一杯勉強し続けた3ヶ月

吉川 朋果

トレント大学はカナダのオンタリオ州という所にある自然に恵まれた豊かな学校です。キャンパス内には川が流れており、リスやガチョウなどたくさんの野生動物がいました。さらに穏やかなのは景色だけではなく、トレント大学で出会う人々はとても優しくておらかな性格の人が多く印象がありました。留学生の私に対しては最初からすごくフレンドリーに接してくれて、積極的に話しかけてくれたことがとても嬉しかったです。

日本とは全く違う環境の中で過ごした3ヶ月間を振り返ってみて、1番に思い出すのは勉強の大変さです。私はクラス分けテストの結果によってESLの中で1番上のFoundations for University IIというクラスに入り、英語の言語を勉強するよりは、犯罪学や心理学など特定の分野の勉強について英語を使って学びました。

毎日課題が出るため、放課後や土日休みはほぼ宿題に追われて終わってしまい、授業内で出される課題もとても難易度が高かったと思います。難しい学術論文を読んだり、何ページにも及ぶレポートを書いたり、プレゼンテーション、クラス内テスト、討論会など日本にいる時にはこなした事のない量の課題をやっていました。

カナダで生活している時は、それがとても辛く感じ、正直逃げ出したいと思う時が多かったです。しかし今振り返ってみると、それは私の人生におけるとても重要な経験であり、辛い勉強から逃げなかったことは今の自分への自信にも繋がっています。もちろん英語のスキルも大きく成長出来たと実感しており、頑張っただけに良かったと思います。

私の留学生活は勉強が大変だったという印象が大きいことは確かですが、その中で空いた時間を使って買い物や観光を楽しむことも出来ました。これからトレント大学に留学をされる皆さんも実りある留学生活を送ることが出来るように応援しています！



▲ ESLの卒業式

▲ The Formal Partyの写真
(本人右側)

▲ トレント大学の看板と法政の学生





カナダ

YORK UNIVERSITY

| ヨーク大学

- 1 受け入れ機関…York University English Language Institute (YUELI)
- 2 大学および周辺の紹介…ヨーク大学はカナダで3番目の規模を誇る大規模大学である。トロントのダウンタウンから地下鉄が伸びており、大学直結の York University 駅があるためアクセスも便利である。ヨーク大学は、カナダで唯一英語とフランス語によるバイリンガル教養学部があり、世界中から学生を集め多文化教育を実践している大学である。そもそもトロントは、オンタリオ州の州都でカナダ最大の街であり、現在トロントで暮らす移民の数は人口の約半数を占めるほどで、各国の習慣や文化を感じることができる都市といえる。
- 3 特色…履修するコースは、ヨーク大学付属語学学校であるYUELIが実施するアカデミックプログラムで、16週間（20時間／週）にわたって英語の基礎（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）を中心に学ぶ。レベルが上がってくると、英語圏の大学で学ぶためのアカデミックスキル習得に重点を置くようになる。
- 4 宿泊施設…ホームステイ（寮を選択する方は申し出てください。）



ヨーク大学SA体験談

行動力が大切な4ヶ月間

石綿 祐人

ヨーク大学はカナダの大学の中でも特に広大な敷地面積を誇り、一年を通して豊かな自然に恵まれています。キャンパス内には小さなショッピングモール、スポーツバー、図書館、ジム、テニスコートなどキャンパス全体が一つの町であるかのような錯覚を覚えるほど施設面においてもかなり充実していました。

法政の学生が勉強をするのは大学附属の語学学校であり、中国、イラン、ベトナム、フランスなど国際色豊かなクラスメイトと共に日々授業を受けることとなります。授業内容は基本的な四技能の分野に分かれていますが、その中でもクリティカルシンキングを根底においたディベートの仕方や効果的なプレゼンのスライドの作成方法などについて日本の授業よりも実用的な英語を身に着けることができました。また、課題の量もかなり多いので時には辛いと感じるかもしれませんが、それを乗り越えてこそ自分の外国語運用能力が日々成長しているという実感が湧くでしょう。授業では語学力はもちろんコミュニケーション能力も向上させることができ、非常に有意義な時間を過ごすことができました。また、自分は授業外においても様々な活動に対して積極的に参加しました。

週末はナイアガラの滝やダウンタウンの観光に加え、MLBやカナダの国技であるNHLなどを観戦しました。また、大学内でテニスをしたり現地学生とジムで汗を流したりするなどかなり充実していました。

自分が滞在したステイ先のホストファミリーはイタリア人であったので日々の料理やテレビ番組、伝統的なしきたりなど随所においてイタリアの雰囲気味わう事ができました。もちろんそれぞれのステイ先によって国籍は違いますが、カナダにいながら他の国の異文化理解も深められることはカナダに留学する醍醐味の一つと言えるのではないのでしょうか。

皆さんもヨーク大学への留学でバラエティーに富んだ様々な経験ができるので、自分の行動力を大切にしていってほしいと思います。



▲ホストファミリーの友達とのホームパーティー



▲Graduation ceremony での1枚



▲ナイアガラの滝で法政の友人と共に。

1 受け入れ機関…Monash University English Language Centre

2 大学および周辺の紹介…大学の創立は1958年と比較的新しい大学であるが、2019年現在、86,753人の学生（そのうち30,321人は留学生）を有する大規模大学に発展し、メルボルンを中心に国内外に複数のキャンパスをもつ国際色豊かな大学として認知されている。SA参加学生が学ぶシティキャンパスは、メルボルン市内の最先端地区、ドックランズ地区に2021年完成に向けて、現在建設中である。再開発エリアのドックランズ地区は、都市デザインと環境の持続性が重視され、革新的な建造物が並びほか、景観とアートの調和に配慮して計画された街で、公園や遊歩道には新鋭アーティストによるパブリック・アート作品の数々が並んでいる。企業の本社やレストラン、おしゃれなショップなどが集結しており、メルボルンの陸の玄関口ともいえるサザンクロス駅が最寄り駅となる。

モナシュ大学のあるメルボルンは、人口約508万人でシドニーに次ぐ、オーストラリア第二の都市である。海外からの移民が多い多文化都市である一方、市内にはビクトリア様式の建物が見られる。また、周辺には緑も多く生活しやすい環境といえる。

3 特色…プログラム開始から約1週間は、法政大学生のために特別に編成された授業を受ける。内容はオーストラリアの文化、歴史、地理、社会についての講義（年度によってはエコツーリズムの実習）などである。この専用プログラムのあと、モナシュ大学付属語学センター(MUELCE)で外国人留学生用の語学特別プログラム(Monash English)を他国からの留学生とともに、5つのレベルに分かれ15週間受講する。1クラスの定員は最大18名で、平均15名の少人数クラスで編成され、1日4時間、週20時間の授業が行われる。無料のWorkshop (IELTS対策、文法講座、発音講座)を受講することもできる。

なお、このコースに参加するためには、TOEIC®-IP400程度以上のスコアが基準となっている。

4 宿泊施設…ホームステイ

モナシュ大学SA体験談

多様性における経験

長沼 直志

語学留学生の通うモナシュ大学付属の語学学校（モナシュ・カレッジ）はメルボルンの中心街に位置する都会の学校です。メルボルンは多様性豊かな都市で、街を歩くだけで世界各地の文化を垣間見ることができます。特に聞こえてくる英語は出身国ごとのアクセントを残していて「英語のアクセントは個性であり、自分の英語に自信を持つこと」が重要だと理解できます。

宿泊形態はホームステイで、4か月という長い時間と一緒に過ごすため関わり方次第で家族同然の関係になることもできます。私の場合、ホストファミリーがインドネシア人でしたが、このように移民の方がホストファミリーになることもあります。人によってはコミュニケーションが難しいと捉える人もいますが、非英語話者同士の間で英語を使い自分の意志を伝えるということは国際感覚を身に着けるうえで非常に貴重な経験であり、オーストラリアならではの強みだと感じました。

授業は必ず双方向型で行われます。内容としては4技能すべてをバランスよく行うのですが、どの時間でも個人の意見、主張そしてそれに伴うロジックが求められます。クラスには様々な文化背景を持つクラスメイトがいますが、それぞれの文化によって意見が異なるのも興味深かったです。

また、モナシュ大学はクラブが多くあり、中でもモナシュ日本クラブでは日本に興味のある現地学生と関わることができるので、そこでできた友人と遊んだり、お互いの第一言語を教えあったりすることもできます。

留学という経験を通して学べることは人それぞれです。どの経験も活かし方次第で自己成長につながります。これから留学に行く皆さんが自分の成長につながる留学生活を送れるように心から祈ります。



◀ ホストファミリーとファミリーの親族との一枚



▲ モナシュ大学の友人との一枚



▲ オーストラリアの観光名所であるグレートオーシャンロード



▲ メルボルン総領事による講演会



ドイツ

Leuphana Universität Lüneburg

ロイファナ・リューネブルク大学

1 受け入れ機関…Leuphana Universität Lüneburg

2 大学および周辺の紹介…ロイファナ・リューネブルク大学はドイツ北部、ニーダーザクセン州の主要都市リューネブルクにある。中世に岩塩の採掘で栄えたリューネブルクは13世紀にハンザ同盟の一大商業都市として成長し、現在はドイツ第二の都市ハンブルクのベッドタウンとして、再生可能エネルギー事業の産業拠点として、自然保護地区リューネブルガーハイデに至近の観光地としても知られている。大学の前身は1946年、戦後ドイツの民主化のため設立された教育専門大学である。1970年代に人文社会系学部（経済・経営学、社会学、文化学）と大学院を擁する総合大学へと改変し、ドイツ再統一（1990年）後にはいち早く環境学部を設置した。教員養成の実績に基づく実践の学のノウハウを、伝統的な学とイノベーションの融合に生かし、時代の要請に応える知の拠点として存在感を発揮している。

3 特色…ロイファナ・リューネブルク大学が開講する講義科目、語学科目およびドイツ語集中講座から構成される。9月の4週間は他の留学生と合同でドイツ語集中講座とオリエンテーションコースを受講、その間に勉学と生活環境のより良い適応をはかることができる。10月～2月の学期中は、ドイツ語講座と「ドイツの文化と社会」と題する講義、「文化と歴史」「政治と経済」「メディアと情報」「サステナビリティ」がテーマの講義を受講する。リューネブルクは標準ドイツ語（高地ドイツ語）の言語発音地域に近く、とりわけドイツ語初心者には最適な留学先と言えるだろう。

4 宿泊施設…ドイツ語を母語とする学生や留学生との学生フラットシェア



リューネブルク旧市街



寮

ロイファナ・リューネブルク大学SA体験談

心安らぐ町、リューネブルクで出会った様々な体験

李 寿英

リューネブルクは人口7万人程度の小さな地方都市ですが、“Am Sande”（アム・ザンデ）と呼ばれる中心部の旧市街は活気があり、ほとんど生活に困るようなことはありません。非常に過ごしやすい上に、ドイツ第二の都市ハンブルクからは電車で40分の距離で、とても便利です。大学は落ち着いた街の雰囲気になじみやすく、一見静かですが、大学本部はダニエル・リーベスキントという著名な建築家によるデザインの非常にユニークな形の建物で、最初は少しびっくりするかもしれません。

SAドイツは冬学期開始の1ヶ月前、留学生準備コースから始まります。ドイツ語コースの他、他の国々の留学生たちとも数多く交流のチャンスがあります。誕生日のパーティーに20人も集まったり、賑やかで楽しい時間も多いです。

SA参加メンバーの寮は全員一緒ではなく、寮ごとに設備や環境に違いはあります。私の住んでいた寮はシェアフラットの2人部屋で、ルームメイトはエルサルバドル出身の非常にフレンドリーな子でした。彼からはスペイン語を教えてもらったり、逆にこちらからは日本の文化を伝えたり、非常に良好な関係を築けたと思います。

学期開始後の授業は、レベルごとクラス分けされるドイツ語クラス、法政の学生のみの「ドイツの文化と社会」という体験型授業、自由選択の入門授業、必修の入門ゼミがあります。入門授業も入門ゼミも、授業は現地学生と一緒に受講します。私の参加した年の入門ゼミは、ホメロスの叙事詩『オデュッセイア』のストーリーを現代の視点で考察するというテーマでした。とても難しく苦しい時もありましたが、今は大きな達成感を感じています。ただしドイツでは、現地学生も留学生もみな、英語を流暢に話します。なのでドイツ語はもちろんのこと、英語の勉強もしっかりしておくといいでしょう。



▲大学の中心校舎にて



▲留学生たちとオリエンテーションをした時の集合写真（本人左中段2番目）



▲授業の先生と食事をした時の写真（本人上段左から2番目）

UNIVERSITÉ CATHOLIQUE DE L'OUEST

西部カトリック大学

1 受け入れ機関…CIDEF (Centre International d'Études Françaises)

2 大学および周辺の紹介…フランス中西部、ロワール川流域にあるアンジュー地方の中心都市であるアンジェ市に位置している。設立は1875年で140年以上の歴史を持つフランス最大の私立総合大学である。

パリ・モンパルナス駅よりTGVで1時間30分の距離にあるアンジェ市周辺には、数々の美しい古城のほか、博物館、劇場などがあり知的好奇心を満たすには絶好の都市といえる。

3 特色…受講するのは、西部カトリック大学国際フランス語研究センター (CIDEF) が開講する語学コースである。CIDEFは、1947年に設立され70年以上の歴史があるフランス語教育機関で、講師陣の質には定評がある。本学独自の2週間のオリエンテーションプログラムを受講後、プレイスメントテストによりレベル分けされる。初級から上級までのクラスによって受講内容は異なるが、会話、作文、書き取り、聴き取り、発音、文法に加えて、選択によって英仏翻訳、美術史、哲学、ビジネスフランス語、ヨーロッパの政治、文学、歴史、イメージと文化などを履修することができる。

4 宿泊施設…ホームステイ



西部カトリック大学SA体験談

Mes beaux souvenirs 私の素敵な思い出

下田 玲菜

SAフランスは、フランス西部に位置するアンジェ市に約4ヶ月半滞在しました。治安が良く、スーパーや大型ショッピングセンター、美味しいレストランやカフェが多くあり、利便性が良くとても過ごしやすい街でした。

私たちはその街にある西部カトリック大学付属のCIDEF (Centre International d'Études Françaises) という語学学校に通いました。

実際に留学して感じたCIDEFの魅力を2つ紹介します。

まず1つ目は、自分のフランス語のレベルに合った授業を受けられる点です。留学生は全員最初のテストによりレベル別にクラスが分けられ、クラスごとに必修科目の数と選択科目の内容が変わります。自分に必要な語学の基礎科目、興味のある分野の専門科目の両方を学ぶことができ、同じレベルの学生と共に切磋琢磨しながら勉強することができました。

2つ目は、異文化交流、異文化理解が豊富にできる点です。CIDEFには、世界各国から多くの学生が留学にきています。私は彼らと授業前や休憩時間にフランス語でお互いの文化について話をしたり、コミュニケーションを取っていました。フランス語を通して他国を知るのはとても有意義な時間であり、自国に留まっているだけでは分からなかったであろう他国の特徴なども知ることができ、良い意味でカルチャーショックを受けました。

また、私たちの宿泊形態はホームステイでした。クリスマスには、マダムの家族を家に呼び、美味しい伝統料理を振る舞ってくれたり、ミサや映画に連れて行ってくれたりフランスの伝統行事を本場で楽しむこともできました。異文化に慣れることは時に困難なこともあります。ホストファミリーと過ごすからこそ見える本物の生活スタイルに触れることができ、貴重な機会だったと思います。

4ヶ月半という期間は本当にあっという間です。予め目標を立ててからSAに出発することでより有意義な時間を過ごせると思います。また、SAは楽しい時ばかりでなく苦しい時もちろんです。そこで諦めずに最後まで努力し続けることで必ず自分にとって大きな成長を遂げることができます。みなさんも充実したSA生活を過ごせることを願っています。



▲校舎前にて先生とSAフランスのみんなで



▲ホストファミリーとその家族



▲授業風景



▲お世話になった先生と

ロシア

PETERSBURG STATE TRANSPORT UNIVERSITY

ペテルブルク国立交通工科大学 (ПГТУ: ペーゲーウーペーエス)

1 受け入れ機関…ペテルブルク国立交通工科大学 ロシア語センター

(https://www.pgups.ru/struct/tsentr_russkogo_yazyka/)

2 大学および周辺の紹介…1809年、アレクサンドル1世（ナポレオン戦争に勝利し、神聖同盟の盟主となった皇帝）の命により、ペテルブルク国立交通工科大学の前身、ロシア最古の技師養成学院が創設された。ロシアのような広大な土地においては、鉄道技術が国力を決定付ける主要な要素となったため、この大学は大きな役割を担い、数多くの物理学者、技師を輩出してきた。

大学のあるサンクト・ペテルブルクは、かつて帝政ロシアの首都であり、ヨーロッパで最も美しい芸術と水の都といわれてきた。今日では、ロシア自動車産業の拠点として国際的に注目を集めている。都市の創建は、1703年、ピョートル大帝がロシア近代化の要としてヨーロッパに開かれた港と要塞を築いたことに始まる。このペトロパヴロフスク要塞は、大学から徒歩圏内にある。また、サンクト・ペテルブルクの中心街、ネフスキー通りまで、大学の最寄り駅からわずか一駅というアクセスの良さも魅力だ。

3 特色…受講するのは、留学生向けロシア語コースで、プレイスメント・テストによりレベルに合ったクラスに入る。文法、会話、文章表現、読解を通して、ロシアの文学、歴史、時事問題、マスコミ・情報文化について学ぶ。SAロシアの学生は全員、ロシア連邦教育科学省認定のロシア語検定試験ТРКИに挑戦する。

4 宿泊施設…学生寮



ペテルブルク国立交通工科大学SA体験談

温かさに触れた留学

古賀 千晶

サンクトペテルブルクは、芸術と歴史を存分に味わうことのできるロシア第二の都市です。私たちの通っていたロシア語センターと暮らしていた寮は中心地にあり、生活する上でとても便利でした。近くにエルミタージュなどの美術館、大聖堂や要塞などの世界遺産も多くあり、休日や授業後に気軽に行くことができました。

寮のフロアには三部屋あり、本学生と一緒に暮らしていました。外食をすることもありましたが、共用のキッチンを利用し主に自炊することで節約して過ごすことができました。

授業は基本午前中のみで、ロシア人の先生によるレベル別、少人数の授業を受けました。生徒ひとりひとりに配慮し授業を進めてくれたので、新しいことを吸収しやすい良い環境のもとで勉強することができました。授業ではロシアやペテルブルクの歴史も学び、より関心を持ってロシア語を学ぶことができ、語学力の向上を実感しました。授業後に美術館や有名な観光名所に連れて行ってくれたこともありました。

また、会話クラブや日本センターでの交流会で現地の日本語を学習している友達が多くでき、会話の中で生きたロシア語を習得することができました。さらに、ロシア人の友達が自宅に招待してくれ、ロシア料理をご馳走してくれたり、街を案内してくれたりと彼らの内面の温かさに触れることができました。

ロシアの歴史や芸術についての知識をたくさん持っている人が多く、私にいろいろなことを教えてくれ、さらに興味が広がりました。それに対し私は日本についての知識が乏しいということに気づき、文化を発信する側として知識や教養を身につける必要があることがわかりました。

うまくロシア語が話せなくてもきちんと話を聞いてくれ、丁寧に正しい表現を教えてくれる友達に恵まれ、一番大切なことは完璧に話せるかどうかではなく、自分自身が挑戦するかどうかであることを学ぶことができました。



▲SAロシアのメンバーと遊園地で



▲仲良くなったロシア人の友人と



▲血の救世主教会前での一枚

上海外国語大学

1 受け入れ機関…上海外国語大学 国際文化交流学院

2 大学および周辺の紹介…上海外国語大学は1949年、中華人民共和国建国と同時に国家の外交、対外貿易、観光などに携わる人材養成を目的に設立された。今日の中国では最難関校の一つに数えられている。国際交流にも力を注いでおり、世界の60の国または地域の400余りの大学や国際機関と交流関係を結び、世界中から集まった留学生たちがグローバルな環境の中で中国語学習と国際交流活動を行っている。

また、上海外国語大学のある上海は、長江（揚子江）が東シナ海に注ぐ河口に発達した中国屈指の経済都市である。悠久の歴史をもつ中国と、近代的な欧米の二つの顔を併せ持つ不思議で魅力的な街であり、最近は都市開発が進んでリニアモーターカーや高速鉄道も開通し、市街地は日々その姿を変えている。

3 特色…午前には精読、会話、聴解を中心とした授業を受け、語学能力の修得を図る。午後には、期間中3回程度、中国文化に関する講義を受講する。また、中国経済の中心地の一つである上海での各種見学会、悠久の歴史を学ぶため、古都・西安、北京への研修旅行も計画されている。さらに、HSK（中国語能力認定試験）受験準備のための選択クラスがあり、全員が合格を目指して自分のレベルに合ったクラスで学習することができる。

4 宿泊施設…学生寮



China



上海外国語大学SA体験談

目標を持って上海へ

窪田 常

中国は人口が世界一多く、広い国土も有している大国です。北ではアジア最大級の雪まつりが行われ、南にはリゾート地として注目を集める島があります。西に目を向ければシルクロードの経由地として栄えた町があり、東の沿岸部には上海や北京などの世界レベルの大都市があります。そんな場所に住む人をはじめとした13億人と同じ土地で同じ言語を使って話してみたいと感じ、中国語を学ぶために上海に留学することを決めました。

上海外国語大学に入学する際にまず語学力を測るテストを受け、その結果に応じてクラスが決まります。授業は基本的に月曜日から金曜日まで、午前中で授業が終わるので、放課後にクラスの友達とご飯を食べに行くことも数多くありました。その結果、韓国やアメリカはもちろん、タジキスタンやベルギーなどあまり日本にいと馴染みのない国の友達が出来、楽しい毎日の連続でした。クラスメイトたちと自国の文化について語り合ったのはとてもいい思い出です。

また、外国語大学ということで留学生に対して、様々な手当がついているのも大きな特徴です。特に注目するべきは旅行休みです。すべての留学生に旅行するための休みが最大で二日間与えられます。私はこれを利用して、以前から気になっていた中国の最西端にある都市のカシュガルに行きました。中国語より土地独自の言語を話している人が多い土地でしたが、学んだ中国語を生かして様々な話し合いを重ね、タクラマカン砂漠などの観光地を案内してもらいました。日本には無い景色ばかりで非常に刺激的でした。また、この旅を通して中国語の能力もかなり上昇しました。

留学する前と比べて、中国語の能力が格段に上がったことは間違いありません。中国語の学習をしながら、数多くの素晴らしい経験も出来る、意味のある4か月でした。



▲友人と上海の外灘で



▲素晴らしいクラスメイトたち



▲壮大なタクラマカン砂漠



Spain

スペイン

UNIVERSITAT DE BARCELONA

バルセロナ大学

1 受け入れ機関…スペイン文化研究所

2 大学および周辺の紹介…バルセロナ大学は1450年創立の歴史ある大学である。教員数は5,600人以上、学生数は約6万3,000人に及びカタルーニャ地方を代表する総合大学だ。大学の建物は1863年に建設が始まり、バルセロナ市の中でも異彩を放っている。外国人向けのスペイン語・文化コースは大学附属のスペイン文化研究所 (Estudios Hispánicos) が開設している。ここではスペイン語はもちろん、スペイン文化についての授業が行われる。

バルセロナ大学のあるカタルーニャ地方は独自の歴史と文化をもっている。またカタルーニャは奇才ダリ、天才ピカソといった芸術家を育てた。異能の建築家ガウディがバルセロナに残した数々の奇抜な建築物は世界遺産に登録され、世界中から多くの見物客を集めている。

3 特色…法政大学の学生はバルセロナ大学附属のスペイン文化研究所が開催する授業を受講する。スペイン語の授業のほか、スペイン史、スペイン美術、スペイン地理など幅広いテーマで授業が行われる。カタルーニャ独自の文化の授業も予定されている。

4 宿泊施設…大学付属学生寮・民間寮



バルセロナ大学SA体験談

想像以上の体験と小さな一歩

渡邊 静季

SAバルセロナは観光都市バルセロナに滞在します。街には活気があふれ常に天気が良いです。私が、学んだ学校は中心街に位置するバルセロナ大学のスペイン文化研究所 (Estudios Hispánicos) でした。週4回授業があり、各国からやってきた人々と共に学びます。午前中に文法の授業があり、レベル別でクラス分けされます。午後は選択の文化の授業があります。様々な分野の授業がある為、自分がスペインについて興味がある授業を選択することが可能です。私は、歴史について興味を持っていたので「ヨーロッパとスペインの歴史」という授業を選択しました。その授業ではヨーロッパやスペインに関する歴史を詳しく学べたので改めて過去と現在との結びつきを感じられて興味深かったです。授業後や空き時間は中心街が近いので、ショッピングをしたりカフェテリアに行ったりしていました。また、バルセロナ大学本校舎の図書館も利用可能なのでそこで静かに予習や復習を行っていました。金曜日から授業がなく休日は国内外旅行に出かけました。ヨーロッパ諸国への国外旅行も可能なので憧れの都市に訪れることも可能ですが、私はスペイン国内旅行をオススメします。何故なら、スペイン各地で特色が異なるので語学勉強や地域勉強にもなります。中でも私が感動した場所はグラナダのアルハンブラ宮殿です。想像以上に宮殿が壮大で非常に感動しました。他にも休日中はガウディ建築やバルセロナ郊外を訪れたりしていました。何事を得るにも自分の足を動かし様々なことを経験し吸収することが大事です。留学生活が必ずしも順調ではあるとは限りませんが、自己成長への小さな一歩になるでしょう。



▲先生との記念写真



▲ムンジェイック城にて



▲メルセー祭りの人間の塔



▲友人とカフェテリア

韓国外国語大学

1 受け入れ機関…韓国語文化教育院

2 大学および周辺の紹介…1954年に設立された、韓国でもっとも長い伝統を有する外国語大学である。現在は法学部や商学部など、さらには理工系学部もそなえた韓国有数の総合大学として発展している。日韓国交正常化に先立つ1961年に日本語学科が韓国ではじめて設立され、近年、英語、中国語に続き学部として独立した。韓国における日本語、日本研究の拠点でもある。キャンパスはソウル市と京畿道龍仁市にあり、後者は広大な敷地が広がる郊外型キャンパスである。法政大学の学生が学ぶ「韓国語文化教育院」は大学本部のあるソウルキャンパスに置かれている。

ソウルキャンパスは都心から地下鉄で20分ほどの「外大前」駅から徒歩4分と便利なところにある。周囲には住宅地が広がっているが、近隣には慶熙大学、高麗大学、ソウル市立大学などが点在する学生の街でもある。

3 特色…「韓国語文化教育院」は韓国の代表的な大学附属語学センターのひとつである。クラスは初級から上級まで6段階に分かれ（他に最上級の特別クラスあり）、授業は1日4時間（週5日）、会話、講読、総合活動などから構成されている。法政大学の学生は編入テストによって配属されたクラスで、2学期（20週間）にわたって授業を受けることになる。

4 宿泊施設…学生寮



韓国外国語大学SA体験談

充実した留学生活

奥島 潤

韓国外国語大学はソウルの東部に位置し、学校名からも分かる通り、多様な言語を学ぶことができる大学であるため、グローバルな視点を持った学生が多く、世界各国から留学生が集まっています。大学周辺は学生街になっており、飲食店が多く、地下鉄やバスといった交通手段も発達しているため、便利な環境にあります。また私達が滞在した寮は新しくできたばかりで、学校の目の前にあったということもあり、大変快適に過ごすことができました。

約半年間通うことになる語学堂は、現地に到着した次の日にクラス分けテストを受け、自分にあったレベルのクラスに配属されます。1クラスは14人前後で、国籍はアジア圏の学生が中心ですが、欧米圏の学生も一定数いました。

授業は1日4コマ（1コマ50分）で主に会話中心に進められます。また少人数クラスなのでわからないところはすぐ質問することができます。1学期に1回、文化体験という授業があり、秋学期は体育大会、冬学期は演劇鑑賞をしました。

課外活動としては、語学堂が主催する言語交換プログラムに参加したり、大学の国際交流サークルに入会したりして、現地の学生と交流を深めながら、韓国語を上達させることができました。

休暇は秋にチュソク（韓国のお盆）、冬に旧正月といった連休や、学期間にある2週間程の休みがありました。私はその期間で、釜山や済州島、江陵といった地方都市に旅行に行きました。旅行では、ソウルとはまた違う人々や食べ物、言葉などに触れることができ、充実した休暇を過ごすことができました。

私はこのSAで、学校の授業だけではなく、日常生活で現地の学生や街の人といった様々な人々との触れ合いを通して、生きた韓国語や韓国文化を学ぶことができました。そのため、自分にとってSAは、大変有意義で貴重な経験となりました。



▲体育大会でのクラス写真



▲サークルのメンバーで撮った写真



▲担任の先生との一枚



▲SA韓国の友人と撮った写真

Q & A

スタディ・アブロード (SA) ・プログラム

Q：ホームステイと寮の生活が不安なのですか？

A：ホームステイ先は、各SA先大学および付属機関が一定の条件をクリアした家庭を責任を持って選定しますが、日本でも、各家庭によって生活様式が異なるように現地でも家庭によって様々なスタイルやルールがあります。ホストファミリーに家庭のルール（食事や門限、洗濯など）を尋ねてみてください。確認することにより生活がしやすくなりますし、質問すること自体がコミュニケーションの第一歩となります。ルールを理解し積極的にホストファミリーと交流することを心がけましょう。

一方で、納得がいけないことや我慢できないことがあるかもしれません。そのときは遠慮せずに直接自分の意思を伝えて、それでも解決しない場合は、現地コーディネータや先生に相談してみましょう。言葉の壁が原因で互いに誤解していたということもあり、現地スタッフに間に入ってもらうことにより、一件落着というケースもあります。それが難しい場合は遠慮なく、法政大学の担当教員または国際交流課に相談してください。

なお、ホームステイの場合、大学までの交通費やインターネットの使用可否はステイ先によって異なります。

寮については、2人部屋の場合、1つの部屋に自分と異なったバックグラウンドを持った学生と一緒にになりますので、様子を見ながら部屋のルール作りをすることが肝心です。生活上の権利はフィフティ・フィフティですのでどちらが先にその部屋に住んでいたかは問題ではありません。ルームメイトが夜遅くまで起きていたり、自分のものを無断で使用される等、気になることがあればお互いに話し合って解決しましょう。

それでも解決しない場合は、大学によって異なりますが、寮の管理人やフロアのレジデンスアシスタント（現地学生のアリーダー）、大学のコーディネータなどに相談するか、法政大学の担当教員、国際交流課に連絡をください。

なお、寮が複数ある場合、希望の寮に必ず入れるとは限りません。人数またはその他の条件で調整されることがあります。

Q：アレルギーや持病があるのですが？

A：入国検査に備え、市販薬を持ち込む場合は未開封のもの、処方薬の場合は英文処方箋の添付を強くお勧めしています。また、薬の種類によって、持ち込める量などには上限があります。それを超える場合には留学先の病院で診察の上、現地の薬の処方を受けるというのが一般的です。まずはなるべく早く自分のかかりつけのドクターに相談しましょう。

なお、アレルギーや持病の症状が軽い場合も、現地大学のアプリケーション（入学申込書）やレジストレーションフォームには必ず記入してください。

その他、何か気になることがあれば遠慮なく国際交流課にたずねてください。

Q：日本の電化製品は使えますか？

A：日本の電化製品を海外で使用するにあたり、注意すべき点は2つあります。

・プラグ

国によりプラグの形状が異なり、同じ国の中でもいくつかパターンがあることも少なくありません。この場合は、プラグの形状を変換する器具（変換プラグ）が必要となります。

・電圧

日本の電圧は100Vですが、海外では110～240Vとなっており、そのまま使用すると故障の原因となります。ただし、携帯電話、PC、デジタルカメラなどは、多くの場合、使用可能電圧が100～240Vとなっており、そのまま使用することができます。本体の定格表示シールなどで、仕様を確認してみましょう。

製品の使用可能電圧が留学先の電圧に対応していない場合は、変圧器が必要となります。変圧器を使用した場合でも不具合が生じるケースがあるため、比較的安価な製品、例えばドライヤーなどは現地での購入をお勧めしています。

Q：留学中に病気になったり、ケガをしたりした場合はどうしたらよいですか？

A：SA参加者全員が加入する海外旅行保険では、海外での緊急なトラブルの際に24時間365日日本語対応可能な電話相談窓口を開設し、病気やケガの際の病院手配を行っています。事前に電話で予約依頼をし、提携病院で診療を受ける場合は、キャッシュレスで受診することができ、自己負担はありません。事前に予約しなかった場合、提携病院でない場合は、一度立て替えてお支払いいただきますが、領収書や診断書等の必要書類を保険会社へ提出することで保険金の請求をすることができます。（ただし、既往症や歯科治療等は補償の対象となりません）

病気やケガの対応以外にも緊急時電話相談窓口では身の回りのものが盗難にあった際の相談、心や体のトラブルに関する相談、渡航に関する緊急相談等に応じています。詳細は出発前の危機管理ガイダンスでお知らせします。



8 注意事項

ホームステイとは

ホームステイ先はホテルではありません。ホストファミリーの義務は「住居と食事を提供すること」であり、あなたをお客様として扱うことでも、あなたの語学力の勉強の手伝いをするということでもありません。食事日本と比べてとてもシンプルな場合が多く、過度な期待は禁物です。風呂・シャワーの習慣も、日本と大きく違います。「お金を払っているんだから」という意識は捨て、理想と異なる部分も「異文化経験＝留学の醍醐味の一つ」と捉えましょう。

日本は、先進国の中でもトップレベルの生活インフラを備えています。清潔な水も温かいお湯も容易に手に入り、電気やWiFi通信で困ることもほとんどありません。食事の種類や味も多様な選択肢があり、安価です。治安水準も高く、同一の文化圏に属する住民が比較的多いため、文化的な摩擦も限られています。世界の国々では、先進国であっても、こういった快適な環境が整っているわけではありません。留学の目的は、ただ語学を学ぶことではありません。自分が今いる快適な生活圏を離れて、多様な生活環境の中で摩擦を経験し、その中で生き抜く力を学ぶ、という目的もあります。

ホームステイの理想と現実

ホームステイ先にどのような期待をしていますか？ 理想と現実のギャップに困惑する学生が、毎年多く見られます。相談の多い例をいくつかあげてみます。

<理想①> SA先国籍の家族が、自分だけを受け入れてくれる。

⇒<現実①> ステイ先が移民家庭であり、また独特のアクセントにより会話が難しい。自分以外にも留学生を受け入れている。

<理想②> 手作りの美味しい食事を囲んで家族で団欒、ホストファミリーは普段からいつも気にかけてくれる。

⇒<現実②> 食事のスタイルは国によって大きく違う（朝食はめいめいがシリアルと牛乳を勝手に食べていく、夕食は作り置き、など）。またホームステイ先の食事が自分の好みではない可能性があることはある程度覚悟しておく。

共働きで忙しい家庭も多く、一人での食事になること、気にかけて貰えないこともある。



※ホームステイに関する情報収集をすることも、事前の心構えをするうえでとても効果的です（以下、参考例）。

● Blossa「ホームステイの理想と現実!?ホームステイを成功させる秘訣」<http://blossa.org/blog/homestay-fantasy>

SA延期の申し出について

ご病気や経済的なご事情等により、止む無く来年度のSA参加が難しく延期を希望される場合は、SA参加前年度の冬季休業期間前までに国際文化学部学部事務までお申し出ください。

留学先での危険薬物使用・所持の危険性

海外で麻薬に関わると、非常に深刻な事態を招きます。現在でも世界の各国で麻薬犯罪により重い刑罰を受け、長期間現地の刑務所に服役している日本人がいます。軽はずみな行動や注意不足から自分の人生を台無しにしないためにも、海外で麻薬犯罪には絶対に関わってはいけません。

欧米等の一部の国あるいは地域では、大麻（マリファナ）の所持・使用が合法化されていますが、その土地の法律で許可されていても危険であることに変わりはありません。安全だから許可されているのではないのです。

日本では大麻取締法により、大麻の所持・譲受（購入を含む）は違法とされ、処罰の対象となっています。

この規定は日本国内のみならず、海外において行われた場合にも適用されることがあります。

日本国外であっても決して大麻（マリファナ）に手を出さないでください。

安易な気持ちで手を出すと、あなたとあなたの家族の人生を大きく狂わせる結果となります。

薬物乱用対策マンガ「たった一度の過ち」前編 薬物乱用対策 - 内閣府



↑必ず読んでください。

薬物乱用対策解説 薬物との闘いは一生続く ～終わらない薬物との闘い～ 内閣府



↑必ず読んでください。

◇自分の知らないうちに麻薬取引に巻き込まれることがあります。麻薬犯罪はほとんどの国で重罪であり、中国や東南アジア等では死刑、無期徒刑といった厳しい罰則が課される場合があります。興味本位で何かわからない物を購入したり、軽い気持ちで麻薬に手を出すが、取り返しのできない悲劇を招きます。

◇他人に騙されたことによる本人の身に覚えのない麻薬密輸についても、重い刑罰が科せられます。

いくら他人に騙されたと弁明しても、その事実を証明することは非常に困難です。

見知らぬ人はもちろんのこと、たとえ知り合いであっても、他人の荷物を安易に預かったり、国外に運ぶことは避けましょう。近年、各国の取締り強化に伴い、日本人旅行者・留学生も麻薬密輸容疑で逮捕拘束されるケースが出てきています。

<ケース>

- 現地で知り合った人から「お礼を出すので、〇〇国に着いたら、この荷物を友達に渡してほしい」と頼まれた。
- 結果：目的地の空港到着後、手荷物検査でその荷物中から麻薬が発見され、麻薬密輸の現行犯で逮捕拘束された。重い刑罰が科せられ日本に帰国することができない。

◇注意事項

- ①薬物犯罪組織は、知人の紹介、元同僚等あらゆる人間関係を使って「運び屋」になるよう誘ってくる。
- ②他人から預かった荷物でも、自分の携行品の中身については責任を問われるため、「知らなかった」、「分からなかった」では済まされず、現行犯で逮捕拘束される。
- ③あなたの人生を棒に振ることにならないよう、麻薬犯罪に絶対関わらない強い意思表示として、「興味本位で手を出さない」、「保管・運搬の依頼はその場で断固として断る」ことが必要。

「あなたに薬物を勧めるような人は、あなたにとって「大切な人」には絶対になり得ません。

「一番大切なものは何か」を今一度、考えてみましょう。」

Guide to Study Abroad Program表紙デザイン作成者 (学部パンフレットイラストコンテスト 審査員賞から選定)**山下玲奈****作品タイトル** 飛翔

作品の趣旨 「国際文化」からさまざまなイメージを持ち、描きました。新一年生が楽しそうと感じる表紙が良いと考え、表紙の鳩は素材のしっかりした線ではなくて手書き風の線で親しみやすさと温かみを出しています。裏表紙のデザインは鳩がオリーブを咥えているところをデフォルメして描きました。



——— 問い合わせ先 ———

◆SA先決定までの手続き・奨学金・単位について

法政大学 学務部学部事務課 国際文化学部担当

〒102-8160 千代田区富士見2-17-1

電 話：03-3264-9345 FAX：03-3264-5245

email：jkokusai@hosei.ac.jp

◆SAプログラム留学手続きについて

法政大学グローバル教育センター国際交流課

〒102-8160 千代田区富士見2-17-1

電 話：03-3264-9408 FAX：03-3264-9256

email：sapro@hosei.ac.jp

このパンフレットは再生紙を使用しています